

「『道歌』に学ぶ」

長与町立長与北小学校

校長 近 藤 徳 雄

平成26年度も残すところ2ヶ月足らずとなりました。子どもたち一人一人が、今の学年での学習や生活のよりよいまとめをし、しっかりと力を付けて、次の学年・次の学校へ確実な一歩を踏み出せるよう、力づけ、支援していきたいと思います。

さて、ゴールが近づくと目標を再確認したり、これまでの自分を再度見つめ直す機会になると感じます。私自身も、これまで10ヶ月のことを振り返り、足らざる自分の有り様を思い、今年度を充実させたものとして締めくくるために、今後はこんな自分を目指したい、こんなことに気をつけて生活していきたい等々を考えています。そのような中で、思い出したのが、

「いまいと いまというまにいまぞなし

いまというまにいまぞさりゆく」

という言葉です。「今」すぐにやるぞと思ったその瞬間には、すでに「今」という時は過ぎてしまい、「今やります」と言葉を発している間にすら「今」は過ぎ去ってしまう。この言葉は、時を大切にせねばならないということとともに、いつも、先を見通しながら日々を過ごさなければ、後手後手に回ってしまうことへの警鐘を伝えてくれていると思います。今このときに、この言葉をかみしめ、背筋を伸ばして職務に励もうと思っているところです。

ことわざや短歌・俳句でもなく、このような形で古の人々の知恵や教訓を語る言葉を「道歌」というのだそうです。今紹介した言葉以外にも、

「重くとも 我が荷は人に譲るまじ 負っている間に 荷は軽くなる」

「親の小言と冷や酒は 後でしみじみきいてくる」

「親の小言となすびの花は 千に一つの徒あだもない」

（親の小言はどれも意味があってありがたいもの。ナスの花は千咲いたら千個の実になる。無駄になる花はないの意味）など、たくさんあるようです。

学年末を間近にした今の時期、次年度に向けての夢や希望を抱いている子どもたちに、私たち日本人が古来から大切にしてきた言葉の力を感じ、受け継いでいってほしいと願います。

また、一つ一つの言葉のもつ意味合いや背景を感じることでできる子どもたちに育ってほしいと思っているところです。